

緑化等功労者の表彰

林業の振興や緑化の推進などの分野において、顕著な功績のあった方々への表彰が行われました。



令和3年度 全国緑の少年団活動発表大会
「全国育樹祭大会会長賞」



令和3年度 全国育樹活動コンクール
「農林水産大臣賞」



令和3年度 ふれあいの森林づくり
「国土緑化推進機構会長賞」



第44回全国育樹祭 北海道緑化等功労者
「知事感謝状」



緑の少年団活動発表

ながめま緑の少年団が「種とりから森を育てる～街を水害から守るために～」をテーマに活動発表を行いました。



清水 夏綺さん(左)、谷口 友望さん(右)



種とりから森を育てる ～街を水害から守るために～

みなさん、こんにちは。私たちは「ながめま緑の少年団」です。私たちの少年団は、学校に属さないで、河川愛護団体「リバーネット21ながめま」というボランティア団体の内部組織として結成された少年団です。それでは、「種とりから森を育てる～街を水害から守るために～」のタイトルで、私たちの森づくりについて発表します。

長沼町は、札幌市の東、新千歳空港の北に位置する、人口約11,000人の街です。町名は、アイヌ語でタンネトーという「細長い沼」があったのが由来です。長沼町は、馬追丘陵、夕張川、千歳川に挟まれており、標高 7~8mでお盆の底のような地形をしています。特に農業が盛んで、大豆の生産が日本一の町です。

私たちの街は、過去130年間に70回以上の水害にあってきました。そのような歴史から、水害から街や自分を守るために、森づくり活動を行っています。

ここから、私たちの森づくり活動を紹介します。まず、森を育てる目的を簡単な実験で勉強しています。左は土だけを入れた箱、右は森に見立てた苗木を植えた箱です。

次に、じょうろで豪雨に見立てた雨を降らせませす。すると、土だけの箱は、表面を早く流れて、濁った水がトレーに多くたまります。

一方、苗木を植えた箱は、木の根や落ち葉の隙間に水を蓄えるので、表面を流れる水は少なく、トレーにたまる水は、透明で量も少ないです。森を育てることで保水力が高まり、洪水防止になる仕組みがわかりました。

次に森づくりです。まず地元の山の木から種を採って、その中の種をまき苗木として育て、成長した苗木をポットへ移し替えて、植樹するといった一連の作業を行って、森を育てています。

種採りは、毎年秋に、地元の山の色々な木から種を採ります。高い木から種を採るのは大変ですが、この時期はコクワの実がなっていて、キウイフルーツのような甘い味がしておいしいので大好きです。エゾエノキやツリバナは、実の中に種が入っているので、実を入れた袋を踏みつけて種を取り出します。

種まきは、発泡スチロールの箱の中に軽石と腐葉土などを混ぜ入れた苗床に、種類別に種をまきます。さらに、乾燥と雑草防止のため、表面に石を敷き、水まきをします。そして、成長した苗木をポットに移し替えて、植樹の準備をします。

そして植樹です。いろいろな苗木から 10 種類選び、直径 3mのサークルの中に植えます。この方法は、その場所の環境に合った木だけが成長して、自然に近い森が造られていくといった植樹方法です。このような植樹を、昨年を含めて19年続けています。

今まで植えた木の成長を調べました。これまで長沼町内の5カ所に植樹をしてきましたが、その中の代表的な場所を紹介します。この場所は12年前に植樹した場所です。当時は、一つのサークルに10種類の苗木を植えました。今では、ミズナラ、シロヤナギ、イヌエンジュ等、3種類から5種類の木が成長しています。さらに、植樹していない種類の木も育っているのが見つかりました。もしかしたら、鳥が種を運んできて、それが成長したのかもかもしれません。

私たちが測定器を使って木の高さを測りました。角度と水平距離を測って木の高さを計算したところ、大きな木ではシロヤナギが10mに成長していました。

上の写真は15年前に植樹した場所と今の状況です。下が11年前で、何もなかった場所がこのような森になっています。今まで、長沼町内で木が生えていない原野に、約1万5千本植えてきましたが、今ではその内の約2割の、3千本位の木が成長して、森が作られてきて、少しずつではありますが、私たちが育てた森が増えてきています。

最後に、この植樹の良いところは、地元の木から採った種で成長した苗木を植えること。いろいろな種類の木を植えて、その中からその場所の環境に合った木だけが育つことです。それは、その森が地域の環境になじんだ、自然に近い森になっていくということです。こういう森が増えてきて、水害から街を守ることに なります。

失敗したことは、植樹箇所に雑草が生えて、草刈りが大変だったことです。これまで、植樹後のサークルに、砂利や木クズで覆うなど、雑草が生えないように工夫してきましたが、大きな効果が見られませんでした。そのため、今はサークルにシートを敷いて植樹を行っていますが、シートのすきまからまだ雑草が生えてくるので、これからも工夫が必要だと考えています。

未来への誓い 私たちの森づくりは、水害から街を守るには、まだ効果が小さいかもしれませんが、確実に森は育っています。これからもこのような森を増やすため、この活動の輪を広げ、長く続けていけるように頑張っていきます。

メインアトラクション

平成17年に北海道から全国に向けて提唱し、道民とともに推し進めている「木育」のすばらしさを、先住民アイヌの人々の伝承文化や夢のような不思議な体験を通して森の魅力を知る子どもたちの物語などで表現し、全国へ発信しました。

■自然との共生、木や森への想い

豊かな森の象徴である「シマフクロウ」目線のダイナミックなパノラマ映像を通して、魅力溢れる北海道の大自然を紹介しました。



古くから自然と共生してきたアイヌ民族の伝承文化をライブで披露し、現代につながれてきた木や森への想いを表現しました。



ムックリの演奏



アイヌ古式舞踊クリムセの披露

■北海道発祥の「木育」

森崎博之さんの軽快なナビゲートにより、北海道発祥の「木育」の理念と意義を紹介しました。

私たちは今、豊かな森林に恵まれた北海道で、様々な可能性にチャレンジを続けています。

子どもの頃から木に触れて、身近に感じることで豊かな心を育てたい。

木とふれあい 木に学び 木と生きる

「木育」です。

「木育」を身近なものとして感じるキーワードは「つながり」。

木と森のつながりを見つけ、人と森のつながりを考える。そして、木育の活動を通じて人と人のつながりを生み出す。森の木から木材へ。そして、木材からできたものが人の暮らしへ。

その「つながり」に触れることで、私たち人間が多くの命と共存しながら、自然の一部として生きていることを実感します。



北海道に暮らす元気な子どもたちが、言葉を話す「エゾマツの木」との出会いから不思議な世界へ誘われ、森の妖精たちと一緒に森や木に触れ親しむことの楽しさを知っていく姿を、大型スクリーンの映像とステージパフォーマンスなどにより表現しました。



平成19年の第58回全国植樹祭の開催地、「苫東・和みの森」に誘われた子どもたち。



そこで出会った森の妖精たちと、森や木に触れる楽しさを身体いっぱい表現。



■「木育」を全国へ、そして未来へ

独自の活動スタイルで「木育」を発信し続けている「木育マスター」の皆さんに自身の活動や抱負を紹介していただき、「木育」に秘められた可能性をPRしました。



八木 一馬さん

子どもも大人も楽しめる活動を展開していきたい!



原 弘治さん

新たな森林サービスの創出にもチャレンジしたい!



酒巻 美子さん

人、動物、そして地球に貢献するビジネスモデルを目指します!



満間 笑歩さん

木育の活動を教育分野に結び付けたい!

豊かな自然の存在にあらためて感謝し、これからも様々な“つながり”を大切にしながら「木育」を未来につなげていきたいという道民の想いを、森崎博之さんのメッセージにのせて全国へと広く発信しました。



今、北海道では約300名の木育マスターが活躍をしています。

これまで北海道の森林づくりを支えてきた林業関係者、森林づくりや木育を応援していただいている企業・団体、そして市町村や教育機関などと連携することで、ますます仲間が増えて活動も多岐にわたっていきます。

私たちは、人と森のつながり、そのつながりの先に待つ未来を信じています。みなさん、この想いを一緒に未来へつなげていきましょう!



緑の贈呈

北海道から日本全国へ「木育」の想いがつながっていくことを願い、金子原二郎農林水産大臣の立会のもと、道内の緑の少年団から、全国から選ばれた緑の少年団の代表に「木育の玉手箱」が贈呈されました。



<木育の玉手箱>
いろいろな木の特性を体感的に学ぶ
ために役立つ素材が詰まった教材

式典に参加できなかった少年団の皆さんにも、後日、お届けしました。



吉賀中 緑の少年団(島根県)



中野方小学校みどりの少年団(岐阜県)に贈呈



岡崎市額田みどりの少年団(愛知県)に贈呈



日吉みどりの少年団(愛媛県)

大会宣言



公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長

濱田 純一

国土の保全や水源の涵養、地球温暖化防止など多面的機能を発揮している森林を、社会全体で守り育てていくことは、私たちに課せられた大きな使命である。

雄大な自然に恵まれ、「木育」の発祥の地であるここ北海道で開催された第44回全国育樹祭にあたり、森林と私たちの暮らしとの深いつながりを再認識し、豊かな森林を次の世代に引き継いでいくことを目指し、次のことを宣言する。

- **森林の有する多面的機能が持続的かつ十分に発揮されるよう、100年先を見据えた「国民参加の森林づくり」を力強く進める。**
- **健全で豊かな森林の整備や木材の利用を一層進めることにより、森林資源の循環利用の確立を目指す。**
- **緑豊かな森林と木の文化が未来へと確実に引き継がれるよう、次代の森林づくりを担う青少年の育成に一層取り組んでいく。**

令和3年10月10日
第44回全国育樹祭

次期開催県あいさつ



大分県知事
広瀬 勝貞

本日秋篠宮皇嗣同妃両殿下御視聴のもと、オンラインも含めまして多くの皆様の御参加により第44回全国育樹祭が盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。特に、北海道の多くの方々が木育の理念のもとに真摯に森づくりに取り組んでおられる姿に、深く感銘を受けました。

次期開催地である大分県は、源泉数・湧出量ともに日本一の「おんせん県」です。また、温暖な気候や豊かな森により育まれた絶品の山海の幸を求めて、多くの方々が訪れてくださる「観光県」であり、全国5位の素材生産量を誇る「林業県」でもあります。

本県の森林は、第9回全国植樹祭の開催等を契機に、これまで先人が築き上げてきたスギやヒノキなどの人工林と、自然公園などの天然林が織り交ざり、林産資源の供給ばかりでなく、水源の涵養や国土の保全、そして、四季折々の景観など、恩恵を産み出しております。さらには、森林による地球温暖化防止にも力を発揮しています。

この豊かな森を次代に引き継ぐため、利用時期を迎えた人工林においては、「伐って使い、植えて育てる」森林資源の循環利用に取り組んでいます。また近年では、頻発・激甚化する自然災害への備えとして、河川沿いのスギ・ヒノキを広葉樹林へ転換させるなど、「災害に強い森林づくり」も進めております。

このような中、来年秋には、ここ北海道からバトンを受け継いで、大分県で全国育樹祭を開催いたします。この施設は、式典会場となる「昭和電工武道スポーツセンター」です。天井を支える最長70mの梁には、一般的に流通している大分県産の無垢の杉材を使用しており、日本最大級の長さとなっています。また、内装には伝統工芸品である竹細工をふんだんに使用するなど、大分の森の魅力を随所に施した施設となっております。

全国育樹祭では、「日本一のおんせん県おおいだ」のキャッチフレーズに負けない「おもてなしの心」を持って、皆様方をお迎えするとともに、特に、将来の森林・林業を担う子どもたちの育成や森林づくりの環をさらに広げる大会にしていきたいと思います。

皆様、来年は是非大分県へお越しください。皆様の御来県を心から、お待ちしております。

閉会のことば



札幌市長
秋元 克広

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下にオンラインにより御視聴いただき、テーマに「つなごう未来へこの木 この森 この緑」を掲げた「第44回全国育樹祭式典行事」が無事終了の運びとなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、日常の場面においてもいまだ様々なご不便があるなか全国各地からお越しいただきました皆様、開催にあたり御尽力いただきました皆様に、式典行事の開催都市であります札幌市を代表し、深く感謝申し上げます。

札幌市は、およそ197万人が生活し、充実した都市機能を有する一方で、市の面積の6割以上を森林が占める都市と自然が調和する魅力あるまちです。本市が毎年行っている市民への意識調査においては、9割以上の方に「札幌が好き」と御回答いただいておりますが、その理由として、「みどりが多く自然が豊かだ」という項目を挙げる方が大変多く、豊かな森林が郷土愛を深める大きな原動力になっております。

自然の恵みによる潤いや安らぎを感じることができる森林は、人と自然が触れ合える憩いの場として貴重な存在です。また、地域の自然環境を保全する機能や、自然災害を緩和する機能を発揮することに加えて、生物の生息空間を提供し、生物多様性の保全に寄与するなど、大変重要な役割を果たしております。

このような特性は、唯一無二のものであり、SDGs「持続可能な開発目標」といった国際的な取り組みを進める上でも、森林の重要性は今後一層増していくものと思います。

このたびの全国育樹祭の開催を契機といたしまして、多くの方が森林が持つかけがえのない価値を改めて認識するとともに、豊かなみどりを大切に育み、未来へと受け継いでいく気運が益々高まることをお祈り申し上げ、閉会のことばとさせていただきます。

エピローグ

北海道で育まれてきた文化の多様性と、北海道の“元気”をお届けし、全てのプログラムを終了しました。

■江差追分・江差追分踊り



唄 木村 香澄さん 尺八 内村 匡成さん
三味線 久保田 喜和子さん 踊り 江差追分踊り保存会

■よさこいソーラン演舞



平岸天神ソーラン踊り保存会・平岸天神太鼓保存会